

平成 15 年 3 月 31 日

各 位

会社名 オリエント時計株式会社
代表者 代表取締役社長 島崎 州弘
(コ-ド番号 7764 東証第二部)
問合せ先 常務取締役 長澤 忠
TEL 03 (3255) 1451 (代)

当社は、本日(平成 15 年 3 月 31 日)開催の臨時取締役会において、「オリエントグル- プ新中期 3 ヶ年計画」の策定について、下記の通り決議いたしましたので、ここにお知らせ致します。

「オリエントグル- プ新中期 3 ヶ年計画」について

1. 趣旨

2000 年 10 月に策定しました「オリエントグル- プ再建計画」は、本年 3 月末をもって終了いたしますが、本年度はグル- プ全社、全事業セグメントにおいて黒字化を達成し、再建目標値である連結経常利益(6 億円)を大幅に上回る利益を確保できる見込みとなりました。

これまで再建計画の柱として掲げた「時計事業の再構築」と「情報・電子デバイス事業の領域拡大」の抜本的事業構造改革に全社を挙げ取り組み推進した結果、期間業績改善の成果に結びつけることができましたが、本日別途公表しました通り、今年度 3 月期末において債務超過を回避する目処がたらず、誠に遺憾ながら上場維持を断念せざるを得ない状況となりました。

かかる状況から、2003 年度を初年度とする「オリエントグル- プ新中期 3 ヶ年計画」を策定し、事業基盤の一層の強化と収益力の維持・拡大を図り、2006 年 3 月期を目処に債務超過の自力解消を目指してまいります。また、その後早期に累損の一掃・復配さらには再上場をも視野に入れ、当面の中期 3 ヶ年において確固たる事業基盤の構築に努めていく所存であります。

再建計画 3 ヶ年実績(連結)

	再建 3 ヶ年実績 (02 年度は見込値)		
	2000 年度	2001 年度	2002 年度
売上高	30,909	29,117	30,800
営業利益	240	431	1,210
経常利益	525	317	1,130
当期利益	3,339	190	1,600

(単位:百万円)

再建計画 (2002 年度)
28,300
1,200
600
500



2. 中期経営目標

本中期計画の遂行により、下記経営目標の達成を目指します。

< 中期経営目標 >

2005 年度(2006 年 3 月期) … 連結債務超過解消(2002 年度末見込 : 19 億円)

単体債務超過解消(2002 年度末見込 : 24 億円)

2003 ~ 2005 年度中期 3 ヶ年間 … グル- プ借入金削減 37 億円

(借入残高 2003 年 3 月末 : 107 億円 2006 年 3 月末 : 70 億円)

3. グループ中期基本方針

市場変化に迅速かつ柔軟に対応し、時計、情報関連(プリンタ部品)及び電子デバイス(水晶振動子及び半導体ウエハ)の3事業を引き続きコアビジネスとして、以下の基本方針のもと、本年度実現見込みとなった連結経常利益年間10億円規模の収益力を安定して維持さらには拡大できる強靱なグループ体質を構築する。

併せて、期間利益、在庫削減等により資金を創出し、中期3カ年でグループ借入金を37億円削減し、財務体質の強化を図る。

- (1)再建計画で構築したスリムで効率的な組織体制を維持しつつ、高スピード高回転の事業運営を推進する。
- (2)売上規模を追わず品質・コスト・納期(Q,C,D)管理を重視し収益の質を高める。
- (3)産業界における生産の海外シフトが加速する中、国内でも生き残れる技術・ノウハウを確立し、高付加価値の製品分野への取り組みを強化する。
- (4)外部要員の活用と人材流動化等による総人件費の増加抑制と併せ、組織風土の活性化を図る。
- (5)上場廃止後における株主はじめ関係先への情報開示(ホームページ活用等)に努め信用の維持を図る。

4. 計画期間

2003年4月～2006年3月(3年間)

5. 中期事業戦略と施策

(1)時計事業

時計事業は安定的に収益確保できる体制をさらに確実なものとし、グループ利益のコアに再生すると共に、メカウオッチを軸にORIENTブランドの価値向上を進める。

- ・ 子会社秋田オリエント精密(株)の時計生産部門を当社に吸収・統合し、メカウオッチ部品の生産合理化、技術の継承及びキャリバ・開発体制の整備を行う。
- ・ 国内営業は、流通チャネルと商材の両面から徹底した重点化・差別化により営業効率を高め、また、物流拠点の集約による物流経費削減を図る。
- ・ 海外営業は、主要市場への深耕化と共に成長が見込まれる新規市場開拓により販売拡大を推進し、また、中高級品へのシフトを進めブランド・イメージと採算の向上に取り組む。
- ・ 完成品生産拠点である香港子会社は、さらなる短納期化・小ロット化に挑戦し、市場ニーズに即応した高回転の営業活動を支えると共に、コスト競争力を武器にOEMなど外部受注の拡大を図る。

(2)情報関連事業及び電子デバイス事業

プリンタ部品及び水晶振動子の加工事業については、生産技術力とコスト競争力を高めセイコ・エプソン(株)の東北生産圏における重要拠点としての地位を不動のものとし、半導体事業については、生産技術、品質、コスト面の優位性を武器にシリコン以外の難削材加工など新規取引開拓に取り組む。

- ・ インクジェット・プリンタ関係は、顔料インク系のヘッドなど高付加価値製品の受注拡大を進める。
- ・ 水晶デバイス事業は、エプソン・グループにおける音叉式水晶振動子の主要生産拠点に位置

付けられるまでに成長したが、デバイス完成品組み立てなどへの分野拡大に取り組む。

- ・ 半導体ウエ - ハ事業は、主要受注先による小口径ウエ - ハの中国移管により受注減少が見込まれるため既に要員体制の縮小など対策を完了しているが、今後は新規取引開拓により受注の落ち込みをカバー - し事業の存続を図る。
- ・ それぞれの事業において、外部要員の活用により労務費の変動費化を進め、コスト競争力を高めると同時に受注変動に対応できる柔軟な生産体制の確立を図る。

6. 中期業績目標

中期3ヵ年の期間利益積上げにより、本計画の最終年度となる2005年度中において、連結及び単体共に債務超過の解消を目指します。

(1) 連結業績

(単位:百万円)

		2002年度 (見込み)	中期計画		
			2003年度	2004年度	2005年度
売上高	時計関連	7,300	7,500	8,100	8,500
	情報関連	19,600	20,700	20,900	21,100
	電子デバイス	3,900	3,900	4,200	4,300
	合計	30,800	32,100	33,200	33,900
営業利益	時計関連	430	450	540	590
	情報関連	620	540	580	560
	電子デバイス	280	170	160	160
	未配賦費用	120	120	120	120
		合計	1,040	1,160	1,190
経常利益		1,130	900	1,040	1,100
当期利益		1,600	800	980	1,030
株主資本		1,900	1,100	120	910

(2) 単体業績

(単位:百万円)

	2002年度 (見込み)	中期計画		
		2003年度	2004年度	2005年度
売上高	28,100	29,600	30,400	30,900
営業利益	370	430	560	600
経常利益	390	670	820	870
当期利益	1,100	750	980	1,010
株主資本	2,400	1,650	670	340

(注) 上記中期業績目標設定の前提とした為替レ - トは 1米ドル 110 円であります。

以上の通り、当社は早期の復配さらには再上場を展望しつつ、当面は債務超過解消を最優先の経営課題と位置付け、総力を挙げて「オリエントグル - プ新中期3ヵ年計画」に掲げた諸施策の推進に取り組む覚悟であります。

関係各位におかれましては、本計画に対し何卒ご理解並びにご支援を賜りたくお願い申し上げます。

以 上